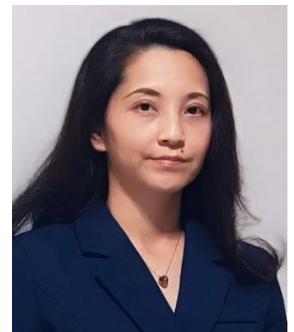




第 17 回学術大会開催報告

一般社団法人山梨県言語聴覚士会 第 17 回学術大会
大会長 佐々木 蘭子

令和 7 年 11 月 23 日、山梨県医師会館において第 17 回学術大会を開催いたしました。今回は久しぶりに集合形式での開催となり、58 名の方々にご参加いただきました。会場では、久々の再会を喜び笑顔が多く見られ、終始活気にあふれた雰囲気の中で大会を進めることができました。本大会では、ことばを通して社会とのつながりを築き、笑顔で前を向きながら「その人らしく生きる」ことを支える言語聴覚士の役割を改めて見つめ直したいとの思いを込め、「ことばがたなく、笑顔と心 ～その人らしさを支える言語聴覚療法～」を大会テーマとして掲げました。特別講演では、「耳からはじめる介護・認知症予防への取り組み～自治体における加齢性難聴の早期発見と補聴器相談医との連携～」と題し、株式会社聴脳科学総合研究所代表の中石真一路先生を講師にお迎えしました。講演では、加齢に伴う聴覚機能の低下がコミュニケーションや生活機能に及ぼす影響について、最新の知見を踏まえ、多角的な視点からご講演いただきました。聴覚低下がもたらす社会的孤立や認知機能低下との関連、さらに地域における言語聴覚士の役割の重要性が示され、参加者からは「言語聴覚士としての責務を再認識した」「より積極的に地域に出ていく必要性を感じた」といった感想が寄せられました。



一般演題では、8 名の先生方による多岐にわたるテーマの臨床実践および研究成果が発表されました。質疑応答では活発な意見交換が行われ、参加者同士が互いの経験や視点を共有する、非常に有意義な時間となりました。

また、今回は企業展示および関連事業の活動報告を企画しました。最新の機器や支援ツールの紹介が行われ、「臨床に役立つ情報を得ることができた」「会員として活動に参加してみたい」「自分も協力したい」といった前向きな声が多く寄せられました。

本大会を通じて、言語聴覚士としての専門性を深めるとともに、領域を超えたつながりや地域における支援の在り方について改めて確認することができました。最後に、本大会の開催にあたりご協力いただきました講師の先生、関係諸団体、発表してくださった先生方、座長および査読委員の先生方、ご参加いただいた皆様、そして実行委員長をはじめとする実行委員の皆様、心より感謝申し上げます。

《目次》

- P1…第 17 回学術大会開催報告 P2～3…学術大会開催報告/参加記・発表記
- P4…失語症者向け意思疎通支援事業報告 P5…第 2 回都道府県士会会長会議報告 P6…新卒者研修
- P7…昭和町地域支援事業/山梨いきいきシニアまつり P8…県士会お仕事紹介・地域リハビリテーション委員会
- P9…ふじやま便 P10…理事会報告 P11…各局・委員会からのお知らせ

第17回学術大会 開催報告

テーマ：ことばがつなく、笑顔と心 ～その人らしさを支える言語聴覚療法～

会期：2025年11月23日（日）

会場：山梨県医師会館

今回の学術大会は6年振りに対面での開催となりました。大会後には懇親会も開催されました。どちらも多くの方々が参加され、当士会ならではの「顔の見える関係性」の良さを実感できる時間となりました。



〈口述発表・質疑応答〉

8演題の口述発表が行われました。高次脳や嚥下、他職種との連携など様々な領域の発表がありました。活発な意見交換が行われたことも印象的です。



〈企業展示・プレゼンテーション〉

4つの企業に参加いただきました。製品紹介を聞いたり、実際に触ることができ、貴重な時間となりました。

〈ST 関連事業の紹介〉

2つの委員会に参加いただきました。地域へ帰り生活する患者さんの様子を知ることができました。

〈特別講演 中石真一路先生〉

ヒアリングフレイルについてご講演いただきました。難聴が認知機能の低下に与える影響について改めて学ぶことができました。

〈集合写真〉

大きなトラブルもなく、無事に大会を終えられました。終了後は全員で集合写真を撮りました。10時半から16時過ぎまでの長時間お疲れ様でした。



〈懇親会〉

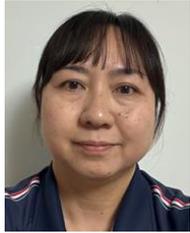
大会後には美味しい食事を囲み、学術大会を動画で振り返ったり、クイズ大会が行われました。みなさんの笑顔が溢れる時間となりました。



参加記・発表記



石和共立病院 市川 奈弥



今回、実行委員長を務めさせていただきました。実行委員は大会長、オブザーバー含め 17 名という少ない人数で、5 月から半年間、この大会を成功させるために一生懸命取り組んできました。久々の参集での開催ということもあり、個々の負担は大きかったかと思います。大会当日、参加者の皆さんの真剣な眼差しや活発な意見交換、たくさんの笑顔を見ることができ安心しました。私にとって有意義な半年間でした。ご尽力いただいたすべての皆さま、ありがとうございました。

甲府共立病院 山川 大樹



事務部として運営に関わらせていただきました。事務部では実行委員会の準備や書類等の作成・送付が主な業務でしたが、作業に取り組む中で、公的な書類のフォーマットや書き方を実践的に学ぶことができ大変貴重な経験となりました。また、今回は 6 年ぶりの現地開催という大きな節目となりました。対面ならではの活発な意見交換や、より深い交流が実現したことを、一参加者としても大変嬉しく思っています。充実した学術大会となり、実行委員として携われたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

春日居総合リハビリテーション病院 志摩 美月



企画運営部を担当させていただきました。対面での学術大会への参加が初めてであり、わからないことばかりで、不安な部分も多くありました。部員の皆様をはじめ大会長、実行委員長、オブザーバーと多くの方々力を借り、無事に終わることができました。学術大会、懇親会に参加してくださった方々が笑顔で交流する姿を見ることができ、現地開催の良さを改めて感じることができました。また外部の方々とのメールや電話でのやり取り、公的な書類の作成方法なども学ぶことができ、とても貴重な経験となりました。ありがとうございました。

山梨リハビリテーション病院 鮎川 梨江



この度、第 17 回学術大会の編集部の部長を務めました、山梨リハビリテーション病院の鮎川です。5 月下旬、第 1 回実行委員会が開催され、編集部の仕事がスタートしました。抄録集の作成には多くの時間を費やしましたが、部員で力を合わせた結果、抄録集を完成させることができました。大会当日、参加者の方々が抄録集を見ながら真剣に学んでいる姿を見て、これまでの道のりを思い出し、感慨深い気持ちになりました。佐々木大会長を始め、市川実行委員長や実行委員の皆様、ご支援をいただきありがとうございました。

新藤歯科医院 新藤 久美



山梨の学術大会は初めての参加で、口頭発表をさせていただきました。久々の口頭発表で緊張しましたが、午前中から会場で先生方が熱心にご質問・やり取りされている様子を拝見し、どんな質問をしていただけるかわくわくしながらの発表でもありました。懇親会も県土会のアットホームな雰囲気を感じられ、楽しいひと時でした。今後も日々知識をアップデートしながら、そして先生方と情報共有・連携をさせていただきながら臨床に励もうと改めて思いました。大会に携わるすべての先生方、大変お世話になりありがとうございました。

山梨大学医学部附属病院 風間 理紗



今回第 17 回学術大会に参加し、舌癌術後の構音障害に対するリハビリテーションの一例について発表させていただきました。症例をまとめる経験や先輩方からの指導を通し、評価が足りていなかった部分や今後理解を深めていきたい部分など多くの発見があり、大変学びのある機会となりました。また当日の発表では、県土会の皆様から質問をいただけたことで、患者様の心理面でのサポートや退院後の支援の重要性についても再確認しました。今回の経験を通し、患者様にとってより良いリハビリに繋がるように今後も努めていきたいと思えます。

今年度スキルアップ（選択科目）研修のまとめと修了者7名の報告

山梨県失語症者向け意思疎通支援事業運営委員会 委員長 赤池 三紀子

第5回 9/27 ハローワーク甲府
「身延線利用と就労情報に接する」支援者 10名



第6回 10/18 双葉ふれあい文化館・ラザウォーク
「グループ訓練での支援及び昼食支援」支援者 5名

令和7年度
失語症者向け意思疎通支援者
第6回養成講習会選択科目（スキルアップ研修）実習
#7.10.18(土)甲斐市双葉ふれあい文化会館が模範実習
本日のスケジュール

1.	9:30~11:30	実習「グループ訓練での支援」	赤池
2.	11:30~11:45	当事者感想発表	
3.	11:45~12:00	ラザウォーク甲斐での昼食支援の相談 会場移動・メニュー・過ごし方・注意点について	
4.	12:15~14:00	昼食(ラザウォーク甲斐)	
5.	14:00~15:00	振り返り	
6.	15:00	解散	



第7回 11/1 富士川クラフトパーク
「和紙ハガキ作り」支援者 2名



第8回 11/29 イオンモール昭和
「バス利用と買い物支援」支援者 5名



車いすのバス乗降時の対応は3年前と同じでしたが、運転手さんの配慮や言葉かけが慣れていて安心できたことと支援者が操作を教える場面などは嬉しい変化でした。

修了者7名

(※写真は当日参加の4名)

第9回 12/3 山梨市フルーツ公園
「パン作り」支援者 5名



令和7年度もスキルアップ研修を9回開催し、無事に終わることが出来ました。今年度の7名を加え3年間で13名の修了者となりました。支援者の中には「個人的な環境はとても苦しい状況であるけれど、ここで学ぶことができて良かった。これをバネに自分も頑張ります。」と熱い気持ちを伝えてくれた方もおり、修了式を迎えた面々の表情からは6年間の集大成が感じられました。

来年度からは新たに4期生の養成研修が始まります。失語症の方々に寄り添いながら、続いていくこの事業の素晴らしさが若いSTの方々に伝わり、支援の輪が広がりますよう、今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和7年度 第2回都道府県士会会長会議報告

一般社団法人山梨県言語聴覚士会 会長 赤池 洋

令和7年11月9日（日）、第2回都道府県士会会長会議がハイブリッド形式で開催され、今回も現地に参加し、会議以外でも現地参加されていた他県士会の先生方と情報共有することが出来ました。会議での報告事項は以下の通りとなります。



1. 都道府県士会マイページ、会員マイページの情報登録（入力無し 50.4%）について報告された（総務部）。
2. 災害に関する制度（災害見舞金・災害弔慰金・会費免除など）、災害対応に関するアンケートについて報告された（災害対策部）。
3. 令和8年度診療報酬改定等に向けた取り組み、実務者講習会基礎編の開催報告、応用編の開催案内について報告された（医療保険部）。
4. 難聴高齢者支援研修会の開催（令和8年1月17日）について報告された（介護保険部）。
5. 実務者講習会小児編「Ⅱ. 障害福祉」の開催（令和7年12月14日）、障害福祉（福祉事業者・小児医療療育施設）担当者連絡協議会の開催（令和8年1月24日）、5歳児健診事業の実態調査について報告された（障害福祉部）。
6. 学校教育連携担当者連絡協議会の開催（令和7年12月6日）について報告された（学校教育部）。
7. 令和7年度研修会開催状況の報告、令和8年度認定言語聴覚士講習会（失語・高次脳機能障害、摂食嚥下障害）開催等について報告された（生涯学習部）。
8. 臨床実習指導者講習会進捗状況について報告された（養成教育部）。
9. 失語症者向け意思疎通支援事業の推進に向けた情報提供（意思疎通支援事業の実施体制整備状況、意思疎通支援のニーズ把握、調査研究協力）について報告された（会長・副会長）。
10. 全体ディスカッションでは士会・協会間の連携体制構築に向けた会員個人データの共同利用体制の構築について活発な意見交換がされた。
11. 第26回日本言語聴覚学会（山形県）の開催報告、第27回日本言語聴覚学会の開催案内（令和8年6月26日、27日：広島県）について報告された。

詳細は協会ホームページや情報誌 STANDUP をご覧ください。また、会員マイページの入力や協会からのアンケート調査につきまして、引き続きご協力の程宜しくお願い致します。

令和7年度 新卒者研修

学術部 副部長 萩原 由香

第1回新卒者研修が10月11日に行われました。赤池洋会長から「言語聴覚士の役割」、中村晴江副会長から「STのコミュニケーションに欠かせないもの、対人コミュニケーション」と題し、ご講義をいただきました。受講の先生方は、県士会幹部との近い距離に緊張の面持ちでしたが、講師陣の親しみ深い語り口に徐々に引き込まれ、頷いたり納得したりする様子がみられました。実施後のアンケートでは『STの活躍の場が病院以外にたくさんあることがわかった』『今後どのような生活をしていくかという視点を持って介入していく』『会話しながらも姿勢や表情に気をつけて観察と分析が大切』などの感想がみられました。

第2回目は、12月4日、元木雄一朗副会長に「失語・高次脳機能障害事例検討会」と題し、ご講義をいただきました。一堂に会する症例検討会では、新卒者は少し気後れしてしまうかもしれないということに鑑み、ざっくばらんに意見を出し合うというコンセプトで“ミニ症例検”というスタイルで、昨年から行っています。元木副会長が以前担当された症例の基本情報や主訴を確認し、脳画像や検査結果について、視るポイントや考え方を一つ一つ丁寧に教えていただいた後、元木副会長から提示された問題をグループでディスカッションし、発表するという一連の流れで行われました。少人数・新卒者・若手同士ということもあり、全員が参加しやすく学びも多かったのではないかと感じました。臨床業務の傍ら、他の講演会等がある状況で、本研修会にも参加するというのは、精神的にも体力的にも大変なことだろうと思います。学術部では受講した皆さんが、貴重な話を聴くことができ良かった、自分も臨床の中で活かしてみよう、このような方法があるのか、そのようにみて、そのように考えればいいのかなど、発見と自信に繋がるような研修内容を考えていきたいと思っています。



参加記

甲州リハビリテーション病院 佐野 楓

山梨県の言語聴覚士1年目を対象とした新卒者研修会に参加し、卒後教育の充実と臨床技術の向上を目的とした学びを得ました。第1回では「言語聴覚士の職務と役割」を改めて整理し、「対人コミュニケーションの基礎」を通して日々の臨床で求められる姿勢を見つめ直す機会となりました。第2回の「失語・高次脳機能障害症例検討会」では、年齢の近い参加者同士でのグループワークが行われ、初めて自ら意見を述べたり質問できたことが印象的でした。積極的に学ぶ姿勢の大切さを実感し、今後の臨床に活かしたいと感じました。

甲府共立病院 依田 蒼生

このたびは、新卒者研修という機会をいただき、ありがとうございます。研修を通して、言語聴覚士として患者様が満足のいく訓練を提供するための責任や心構えを学びました。多くの患者様と関わり、教材から学ぶ自己学習を通して、専門職としての役割をしっかりと果たしていきたいと感じました。また、コミュニケーションの基盤となる「話す力」「聴く力」の重要性も改めて認識しました。症例検討では先輩方の意見から多くのことを学び、自分の不足している点も実感しました。研修で得た気づきを今後の臨床に活かし、成長していきたいです。

認知症対策推進委員会 活動報告

昭和町地域支援事業「高齢者健康づくり教室おたっしや出前講座」

認知症対策推進委員会 山田 徹

令和 7 年の各市町村認知症施策への参画の一環として、昭和町において「認知症リスク低減！聞こえの健康講座」を担当しました。同町では令和 2 年度にも同様の講座を担当しており、今回で 2 回目の依頼となります。今年度は全 6 回、町内 6 地区という広範囲で実施されました。

講座では、聞こえの仕組みや難聴のタイプを解説し、早期対応の重要性や認知症との関連性を詳しく説明しました。賛助会員「なかだて補聴器センター様」のご協力により、最新の補聴器情報の提供も行いました。参加者の健康意識は非常に高く、熱心にメモを取る姿や、日頃の聞こえに関する具体的な悩み相談が多く寄せられたのが印象的でした。

ST としての展望

加齢性難聴と認知症の早期対応に関する啓発は、今後ますます重要になります。ST（言語聴覚士）として、専門知識を地域に還元し、職能活動の発信を継続していく重要性を改めて実感する機会となりました。

広報部 活動報告

第 1 回 山梨いきいきシニアまつり 出展レポート

広報部 山田 徹



令和 7 年 10 月 10 日（日）、リッチダイヤモンド総合市民会館にて開催された、一般社団法人山梨県老人クラブ連合会および山梨県健康生きがいづくりアドバイザー協議会主催「第 1 回山梨いきいきシニアまつり」に情報展示ブースを出展しました。本イベントは、中高年齢者の健康および生きがいづくりの支援を目的として開催され、当日は多くの民間企業や関係団体、医療施設が情報展示を行いました。当士会では、「健康聴寿を目指そうーあなたの聞こえは大丈夫？聞こえについて学ぼうー」をテーマに展示を行い、**約 80 名**の来訪がありました。

加齢性難聴の基礎知識や認知症との関連について説明するとともに、聞こえに関するセルフチェックを実施し、早期対応の重要性を呼びかけました。また、賛助会員「なかだて補聴器センター様」の協力のもと、補聴器に関する情報提供も行いました。

今後の展望

日頃の不安や悩みに直接触れることができ、地域における ST 役割を再確認しました。これからも皆様の「健康聴寿」を支えるべく、積極的な発信を続けていきます！



地域リハビリテーション委員会

ディサービスいろは 舟越 あゆみ

当委員会は地域包括ケアシステムへの取り組みとして、2012年に地域支援事業等推進委員会として設置されました。地域リハビリテーション活動支援事業の推進に向け、介護予防事業への指導や助言、地域ケア会議において自立支援に向けた助言や提案等ができるよう、広報活動や人材育成を担ってきました。人材育成においては、日本言語聴覚士協会の人材育成研修会（初期研修・導入研修）を開催し、初期研修では基本的な知識等を得て、導入研修では講義とグループワークを行い、地域活動で活躍できる人材を育成しています。

県士会 お仕事紹介

リハビリテーション専門職団体協議会の地域リハビリテーション委員会では、広報活動・人材育成を行っています。広報活動ではリーフレットの作成、行政や地域包括支援センターへの働きかけ、人材育成ではPT・OT・ST指導者育成、介護予防アドバイザー養成、地域ケア会議推進メンバー育成等の会員向け研修会や市町村向けの介護予防推進事業の住民説明会等を開催しています。PT・OT・ST指導者育成、介護予防アドバイザー養成、地域ケア会議推進メンバー育成等は2024年に形式を変え、人材育成研修（基礎編・応用編・フォローアップ編）として開催しています。研修会では地域で活動していく為の基本的な知識や地域リハビリテーションマインドを他職種との対話を重ねながら培っています。県内で働くリハ専門職の顔の見える関係づくりを通して、地域活動を進めていく仲間づくりにも繋がっています（2024年度、2025年度ともにST2名が受講）。



2024年 フォローアップ研修

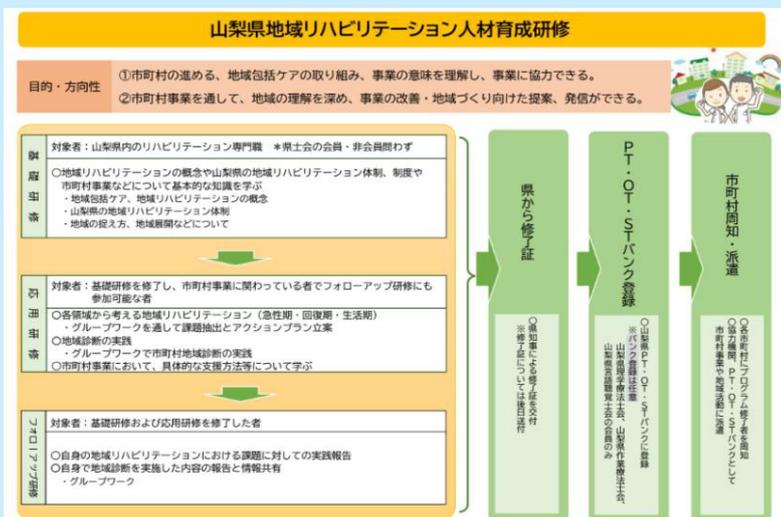


2025年 応用研修



この研修会を修了することで、PT・OT・STバンクへ登録することができます。登録を経て、市町村から山梨県リハビリテーション支援センターへ派遣依頼のあった市町村事業や地域活動へ派遣されます。

圏域によってSTの数に偏りがあり、必要とされている方に支援が行き届かないという課題があります。PT・OT・STバンクの登録・派遣を通して、必要とされる方に支援が届き、対象者が住み慣れた地域でその人らしい暮らしが送れるよう支援していけるように尽力していきたいと思っています。



第17回の失語症友の会「ふじやま」の定例会が令和7年9月13日に、「もしもの時はどうする？防災について考えよう！」というテーマで開催されました。今回は、当事者・ご家族12名、支援者4名、ST9名が参加し、みんなで真剣に様々な災害を想定し防災を考えました。また、避難所で役立つ体操をしたり、的当てゲームで盛り上がりました。



次回

2月7日を予定しています。
ぜひご参加をお待ちしています。

今回は会員が防災について考える機会となりました。中でも失語症に対する個別対応への心配、避難所までの移動や避難所生活に対する不安が多く聞かれました。災害時に失語症を含めたコミュニケーションに障害のある方々への対策についても、STとして平時より念頭に置く課題だと再認識しました。

作成：「ふじやま」運営委員会

第5回 理事会議事録

日時：令和7年8月22日（金）

19時00分～20時08分

出席理事：赤池(洋)、赤池(三)、市川、佐々木、武井、中村
萩原、舟越、吉澤、桂川

欠席理事：元木、岡、高橋、中嶋、山田

〈協議事項〉

1. 部会費（会議費・交通費など）について、来年度の総会に向けて検討を進めていくこととなった。
2. 学術講演会のテーマおよび講師について、成人領域および小児領域から講師依頼をすることとなった。

〈報告事項〉

1. 学術部より第2回症例検討会について報告された。
2. 訪問リハビリテーション委員会より2025年度生活期リハビリテーション研修会について報告された。
3. 失語症者向け意思疎通支援事業運営委員会より失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修修了者の集い、第4回失語症者向け意思疎通支援者養成講習会、失語症者向け意思疎通支援者指導者養成研修の参加者について報告された。

第6回 理事会議事録

日時：令和7年9月25日（木）

19時02分～20時00分

出席理事：赤池(洋)、赤池(三)、中村、元木、市川、佐々木
高橋、武井、中嶋、萩原、舟越、山田、吉澤、桂川

欠席理事：岡

〈協議事項〉

1. 学術部より第1回学術講演会の講師および講演内容が承認された。
2. 渉外部より外来リハ・訪問リハ・訪問看護・通所リハ・通所介護に関する実態調査を実施することが承認された。

〈報告事項〉

1. 学術部より基礎講座について報告された。
2. 災害対策支援委員会より災害基礎研修伝達講習会の実施について報告された。
3. 認知症対策推進委員会よりRUN 伴やまなし2025について報告された。
4. 失語症者向け意思疎通支援事業運営委員会より山梨県障害福祉課への令和7年度の事業報告および令和8年度予算編成に向けた会議を実施したことが報告された。

第7回 理事会議事録

日時：令和7年10月24日（金）

19時02分～20時00分

出席理事：赤池(洋)、赤池(三)、中村、元木、市川、岡、佐々木
中嶋、萩原、舟越、吉澤、桂川

欠席理事：高橋、武井、山田

〈協議事項〉

1. 会報編集・HP 管理部より県土会 News63 号への掲載する内容について、承認された。

2. 災害対策支援委員会より災害時安否確認システム第2回予行演習を実施することが承認された。

〈報告事項〉

1. 学術部より基礎講座、第1回学術講演会、新卒者研修会、第3回症例検討会について報告された。
2. 広報部より第1回山梨いきいきシニアまつり、山梨県在宅医療推進フォーラムへの人員派遣について報告された。
3. 訪問リハビリテーション委員会より地域リーダー会議、第3回訪問リハビリテーション委員会について報告された。
4. 地域リハビリテーション委員会より山梨県リハビリテーション専門職団体協議会地域リハビリテーション人材育成研修について報告された。
5. 第17回学術大会実行委員会より生涯学習プログラムポイント取得対象研修会として承認されたこと、14団体・協会から名義後援承諾の回答が得られたこと、座長の人選、懇親会について、企業展示についてなどが報告された。

第8回 理事会議事録

日時：令和7年11月21日（金）

19時04分～20時24分

出席理事：赤池(洋)、赤池(三)、中村、元木、市川、岡、佐々木
高橋、武井、中嶋、萩原、舟越、吉澤、桂川

欠席理事：山田

〈協議事項〉

1. 特別支援教育委員会より『ことばの発達サポートBOOK～「様子をみましょう」と言われたら～』作成について、監修を山梨県言語聴覚士会として刊行していくことが承認された。

〈報告事項〉

1. 災害対策支援委員会より山梨県リハビリテーション専門職団体協議会主催の災害対策支援委員会研修会、山梨県災害リハビリテーション支援関連団体協議会主催の研修会が開催されたことが報告された。
2. 認知症対策推進委員会より認知症のひとと家族の会山梨県支部より機関誌『あした葉』111号への執筆依頼があったこと、昭和町介護予防事業おたっしゅ出前講座が開催されたことについて報告された。
3. 失語症者向け意思疎通支援事業運営委員会より第7回失語症者向け意思疎通支援者養成講習会研修について報告された。

開催方法：オンライン会議

議長：赤池洋

書記：石間戸香穂、河村有美、佐藤淳貴、望月智佳

議事録作成：桂川謙祐

<各局・委員会からのお知らせ>

事務局

<総務部>

・会員動向（令和7年12月現在）

正会員数132名、賛助会員5団体

年度末に向けて異動の多い時期かと思えます。会員名簿記載事項に変更のある方は速やかに「会員異動届」をご提出ください。届出用紙は県士会HPからダウンロードできますので事務局まで郵送またはメールでお送りください。ご協力をお願いいたします。

<財務部>

多くの会員に会費を納入していただきました。ご協力ありがとうございました。未だの方は納入をお願いいたします。

学術局

<学術部>

今年度も学術講演会・症例検討会・基礎講座・新卒者研修会等、多くの会員の皆さんにご参加いただきありがとうございました。

来年度の症例検討会発表者を募集しております。併せてバイザーのご協力をお願いいたします。

地域リハビリテーション委員会

令和8年2月10日(火)、17日(火)、24日(火)の3日間で、地域リハビリテーション活動支援推進のための人材育成研修会 日本言語聴覚士協会初期研修のオンライン開催を予定しております。地域リハビリテーション活動支援事業に携わるSTが講師となって、地域での活動も紹介しながら講座を進めていきます。一度受講された方も再受講可能ですので、ぜひ気軽にご参加いただければと思います。

失語症友の会「ふじやま」運営委員会

当事者の方と一緒に「ふじやま」でどんな活動をしていきたいか話し合いながら、皆で定例会を計画しています。今年度3回目となる第18回定例会の開催も予定しています。ぜひ、会員の皆様のご参加をお待ちしています。

災害対策支援委員会

災害対策支援委員会では、災害時安否確認システム第2回予行演習を令和7年11月3日～11月10日に開催しました。第2回予行演習では74名の会員の皆様に参加していただきありがとうございました。現在、災害時における情報共有や連携がより迅速に行えることを目的として「責任者 LINE グループ」の運用も開始しています。災害時安否確認システム予行演習の際にも活用させて頂いていますので、まだ参加されていない責任者の先生方をご確認をお願いいたします。



やさしい聴こえのお手伝い

- 認定補聴器技能者在籍
- 補聴器の無料体験
- 支援法補聴器取り扱い

認定補聴器専門店
なかだて補聴器センター

甲府店 ☎0120-29-3321 玉穂店 ☎0800-800-8173
甲府市中央5丁目2-29 中央市若宮 29-3 T-ウエスト

ジェントル スティム

リハビリテーションのための
新たな電気刺激装置

痛くない療法
感覚刺激
使いやすい

foodCare JAPAN TEL: 042-700-0039 www.food-care.co.jp

喉頭を摘出した方の QoL 向上を
目指し、代用音声用製品（シャ
ント発声・電気式人工喉頭）、
呼吸器ケア用製品（人工鼻
（HME））を提供しています。

コロプラス株式会社 代用音声・呼吸器ケア事業本部
（旧株式会社アトスメディカルジャパン）
〒102-0074 東京都千代田区九段南2-1-30 イタリア文化会館ビル11F
Tel: 0120-664-469 Fax: 03-6770-0002
www.atosmedical.jp

Atos

Pepti-Sal 唾液のチカラで健康と笑顔を
Oral Health for Everyone

デリケートなお口をやさしくケアし
お口の環境を健康に保ちます

Pepti-Sal（ペプチサル）とは
「Peptide（ペプチド）」+「Saliva（唾液）」の造語。
唾液のチカラに着目して開発された
低刺激性のオーラルケア製品です。
要介護の方の口腔ケアにもおすすめです。

2層構造の
ペプチド
配合

ラクト
フェリン
配合

キシリ
トール
配合

保湿成分
配合

pH
中性域

発
泡
洗浄剤
配合

アルコ
ール
配合

パラ
ベン
配合

T&K ティーアンドケー株式会社 TEL: 03-5645-0233 FAX: 03-5645-0232 www.comfort-tk.co.jp

コトサブ 自宅で手軽に自主トレ！
言語トレーニングアプリ

リハサブ 言語訓練をアプリ1つで！
言語聴覚士向け教材アプリ

一般社団法人山梨県言語聴覚士会ニュース

<発行所> 一般社団法人山梨県言語聴覚士会
<発行人> 赤池 洋
<編集> 一般社団法人山梨県言語聴覚士会 社会局会報編集・HP 管理部

石 和 温 泉 病 院 : 高橋 正和
甲 府 城 南 病 院 : 吉澤 由香、秋山 仁哉、
大島 愛
訪問看護ステーション洗心 : 岡 大樹
甲州リハビリテーション病院 : 海野 友希
甲 府 共 立 病 院 : 菊原 悠雅
山梨リハビリテーション病院 : 古西 叶佳
春日居総合リハビリテーション病院 : 志摩 美月
湯 村 温 泉 病 院 : 高木 建汰

<事務局> 医療法人慈光会 甲府城南病院 言語聴覚療科内
〒400-0831 甲府市上町 753-1
<発行日> 2026年2月1日 第63刊

編 集 後 記

明けましておめでとうございます。2026年も山梨県言語聴覚士会をよろしくお願ひ申し上げます。今年は午年、60年に一度の丙午にあたります。かつてその生まれの女性は「気が強い」「夫の命を縮める」の迷信として語られてきましたが、今ではむしろ情熱的で行動力を象徴する年回りとして受け止められていると言うため、私も頑張りたいと思います。

昨年は大阪万博の開催に伴い、世界中から人の往来が活発になったことや日本言語聴覚学会も現地開催になるなど人と人との直接的な出会いが戻りました。一方で、新型コロナウイルスとインフルエンザが同時に流行し、学級閉鎖や面会制限の再開など再度感染対策に気を配る1年となりました。私自身も昨年は痩せると決意し、運動も食事制限も過度に行ったことでコロナとインフルの両方に罹りました。何事も「適度さが必要」と身体で学んだため、新しい年は健康第一に行動しようと思います。まだまだ寒さと感染対策が続く季節ですが、皆様もどうぞご自愛ください。（高木建汰）